

「サービスについて考え、実践するテニス教室」報告

from 日本機械学会 スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス部門ニュースレター 2017年 第2号, pp.7-8.

日本機械学会 「機械の日・機械週間」

スポーツ工学&ヒューマンダイナミクス部門企画「サービスについて考え、実践するテニス教室」

長岡技術科学大学 塩野谷 明 (SHD 部門企画委員長)

日本機械学会「機械の日・機械週間」スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス部門企画行事「サービスについて考え、実践するテニス教室」は2016年10月8日(土)、講師に川副嘉彦氏(日本機械学会フェロー)、堀内昌一氏(亜細亜大学・ユニバーシアード日本代表選手・監督)をお招きし、森稔詞氏(亜細亜大学コーチ)、亜細亜大学テニス部の協力のもと、亜細亜大学日の出キャンパスセミナーハウス・テニスコートを会場に18名の参加者で実施されました。

本教室は、威力のあるサービスを楽に打ち、かつ実践(試合)に生かしたいというテニスプレーヤーをターゲットに2部構成で行われました。午前中はサービスのパフォーマンス向上のための基礎として、川副氏からテニスラケット、ストリング、ボールなどの用具の性能に関する長年の研究成果について紹介していただくとともに、本教室企画者として塩野谷がヒトの神経生理学的メカニズムについてお話をさせていただきました。川副氏からはトップ選手の動画を交え、テニスの用具で起こっている現象と様々なメカニズムに関する興味深い報告があり、参加者からも多くの質問が寄せられていました。特に、数十年前圧倒的なパフォーマンスを発揮し使用禁止に至ったスパゲティストリングスとの比較で、特殊なコーティングを施した日本製のストリングスのお話は、何度伺っても興味の尽きないお話でした。

午後からはオンコートで、堀内氏から基礎的な技術特にサービスに主眼を置いた技術指導をいただくとともに、最後に参加者全員でダブルスのゲームを楽しみました。毎回ユニークな指導方法を紹介していただく堀内先生からは今回、ストロークにおいてボールをコート内に正確に入れるための指導方法としてネット上1mに紐を張って、それをターゲットにストローク練習をするというアイデアを紹介いただき、非常に感心させられました。今回もオンコートでの技術練習ではオクタル社の協力をいただき、映像として参加者にオンコートで即時フィードバックされ、参加者からは好評をいただきました。

